

## 新年のご挨拶

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会  
会長 石村和彦



新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては健やかに新年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。また、旧年中は当協会運営に対し多大なご支援、ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、顧みますれば、昨年は総選挙によりアベノミクスの継続が支持された年でありました。また、平成 29 年度の住宅着工戸数の見込も前年度に比べ微減に納まるとの予測が大勢ですし、株式市場の上昇もあり比較的平穏な年であったと言えるのではないのでしょうか。

では、本年はどのような年となるのでしょうか。

国際環境においては、引き続きトランプ大統領の「アメリカ・ファースト」が経済の攪乱要因になりそうですし、北朝鮮の問題も我が国を含む北東アジアの経済状況に暗い影を落とし続ける等静穏な状況を期待できるような年ではないようです。

一方、国内においては、昨年 6 月に閣議決定された「未来投資戦略 2017」で、従来からの重点課題である ZEH の普及加速や既存住宅流通・リフォーム市場の活性化に加え、健康寿命の延伸や IoT 化によるスマートタウン、スマートホームの実現を目指すことが重点課題として盛り込まれており、その後 10 月に世耕経済産業大臣が発表された「東京イニシアチブ 2017」で、より具体的な提案がなされております。

こうした状況を踏まえ、当協会では一昨年来積極的に取組んで参りました新築住宅における ZEH 普及活動に加え、IoT 住宅研究会を立ち上げ、IoT 住宅に必要とされる住宅建材や設備のニーズを研究すると共に、今後予想される制御システム同士の相互干渉や予防安全の規格について関与を深めて参ります。

リフォームビジネスの拡大支援については、リフォーム推進委員会制度検討部会において既存住宅の性能面のインスペクション制度の検討を進めてまいりましたが、これを「住宅の燃費」という考え方に昇華させ、アピール度を高めるための活動を他団体と協働して実施中です。また、一昨年に引き続き昨年 11 月に開催されました「Japan Home & Building Show 2017」に建産協ブースを出展し、“もっと上質に、より魅力的に、更に健康に、リフォームで Smile” をテーマに、三日間で多くのお客様にご来場いただき、リフォームの最新情報を発信いたしました。

また、カタラボにつきましては、ご利用度は引き続き前年を上回る実績となっておりますが、昨年はさらなる改善を目指し、5 年後のユーザーニーズを捉えたカタラボの機能向上と認知向上につき分科会で検討して参りました。本年はこれらの改良施策をいよいよ実施する段階となっております。皆様によりよい情報をより便利に提供できるよう注力して参ります。

新しい年を迎え、当協会は昨年以上に協会の重点課題の進捗に注力し、皆様の事業発展のため、経済産業省、国土交通省、環境省等の関係官庁と連携を強化しつつ支援施策を展開して参ります。

末尾にあたり、皆様のご健勝と会員会社・団体様のご繁栄を祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。